

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会(第31回)

日時：令和4年9月4日(日) 14:00～16:00

場所：西の丸会議室

次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事 令和4年度の二之丸庭園の追加の発掘調査について <資料1>
南蛮練塀について <資料2>
- 4 報告 余芳の移築再建について <資料3>
- 5 閉会

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会(第31回)出席者名簿

日時：令和4年9月4日(日) 14:00～16:00

場所：西の丸会議室

(敬称略)

■構成員

氏名	所属	備考
丸山 宏	名城大学名誉教授	座長
仲 隆裕	京都芸術大学教授	副座長
高橋 知奈津	奈良文化財研究所研究員	

■オブザーバー

氏名	所属	備考
野村 勘治	有限会社野村庭園研究所	
平澤 毅	文化庁文化財第二課主任文化財調査官	

令和4年度の二之丸庭園の追加の発掘調査について

1. 調査目的

園池北側石組の復元において、園路が下記の3案推定される。過年度の調査では園路に関する遺構は確認されておらず、案1・案2に関する箇所は調査が行われていない。

このため、石組復元箇所周辺を再調査し、園路遺構や近世遺構面、石の据付けを確認し、園路のルートや形状を確定する。石1の据付けも再確認する。

2. 園池北側石組の復元案

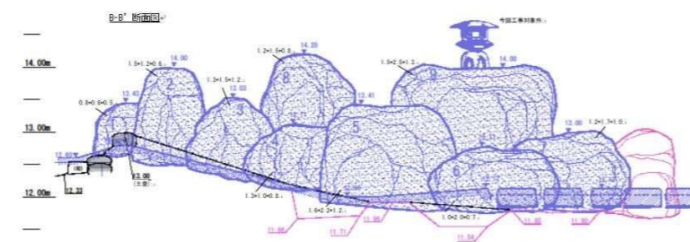
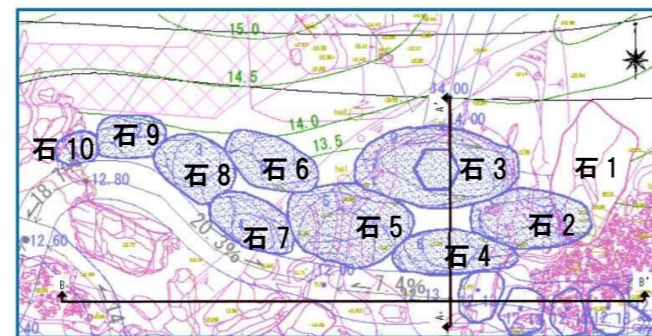


図1 復元箇所(御城御庭絵図部分)



写真1 復元箇所(遺構写真)

案1：前回(R4年3月21日) 部会提示案

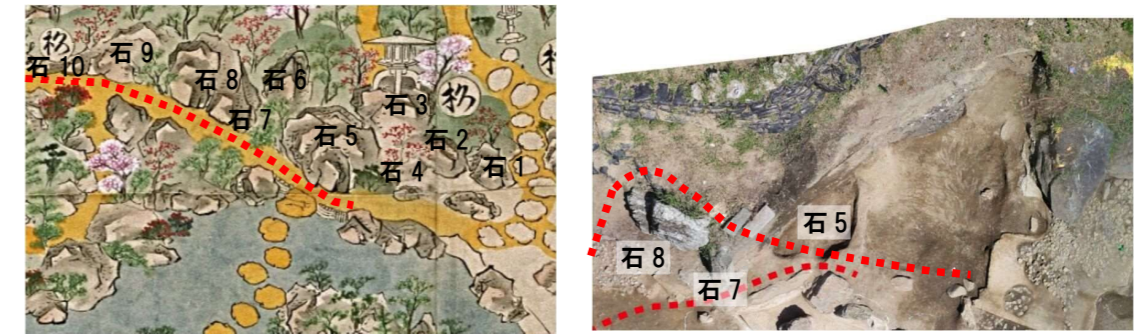


案2：案1の改変案

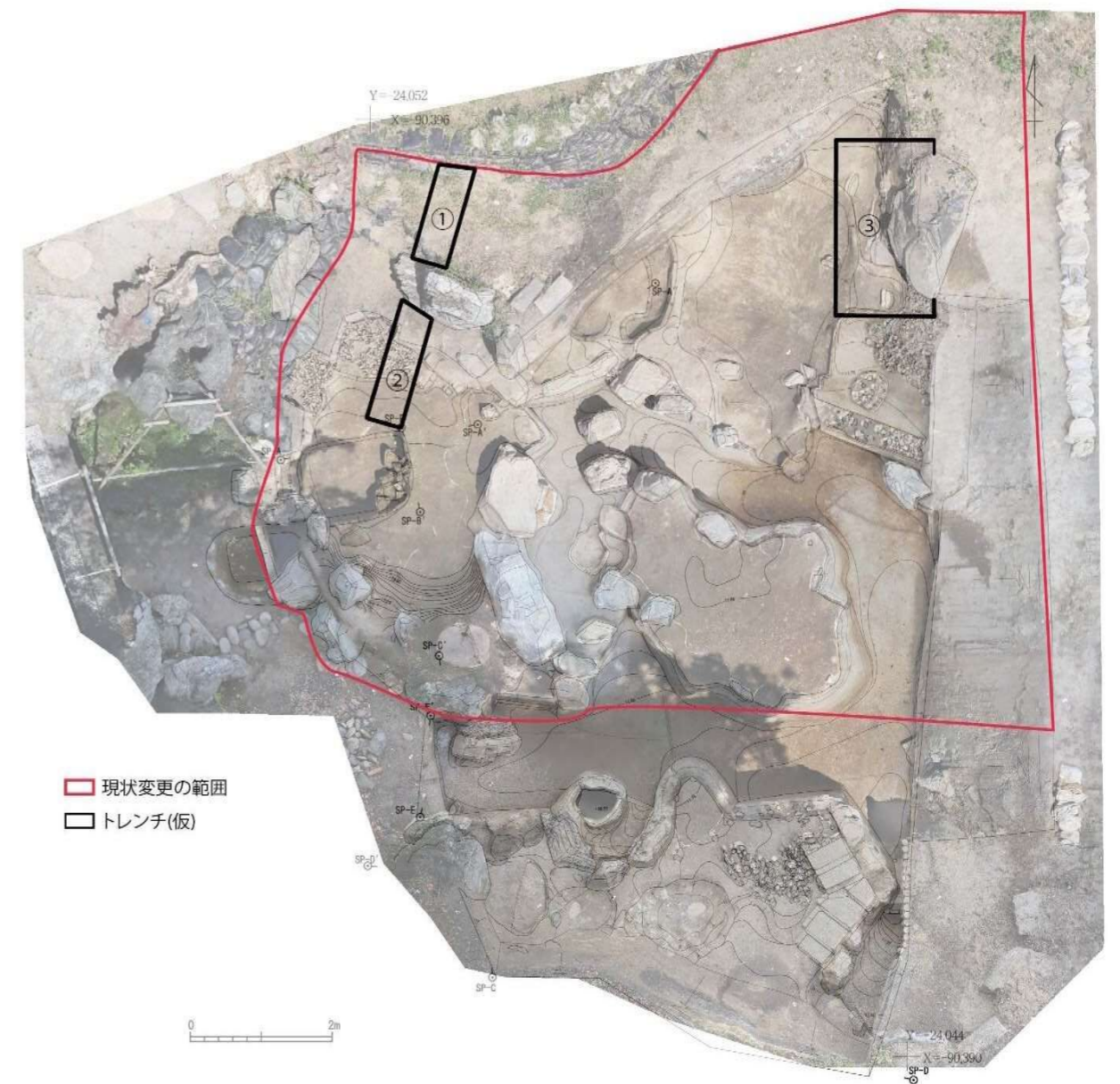
案1は石7から石10までの園路が急勾配となることから、該当部分の遺構面が低い可能性はないか。

案3：案1よりも園路が南側に位置する案

案1は石7から石10までの園路が急勾配となることから、さらに南側に位置する可能性はないか。その場合、石7付近の園路幅員(護岸天端含む)は0.4~0.6m程度となる。



3. 追加発掘調査案

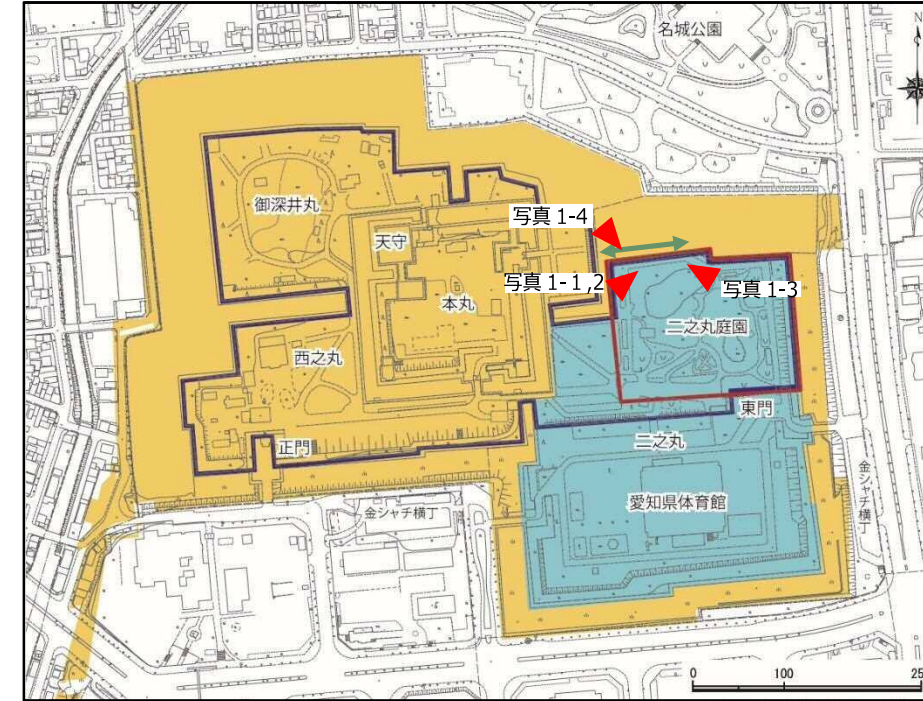


南蛮練塀について

1. 概況

1-1. 南蛮練塀について

- ・二之丸庭園の北端の堀に面して築かれた全長約 80m の練塀
- ・南蛮たたきで固められた非常に堅固なものであり、円形の鉄砲狭間が見られる
※『特別史跡名古屋城跡保存活用計画』p74 参照
- ・練塀上部の大半は崩壊し、わずかに底部を残しているが、ところどころ崩れて断続的な状態で、一部内側に倒れ込んでいる
- ・周辺では雑草や葛類の繁茂がみられ、根や茎の侵入による亀裂の進行や、練塀北面、上面、南面上部は菌類・コケ植物の繁殖が原因と推定される劣化がみられる
- ・亀裂の発生または既存の亀裂拡大抑制に対して効果的な措置を行う必要がある
※『特別史跡名古屋城跡保存活用計画』p101 参照



- 【凡例】
- 特別史跡指定範囲
 - 特別史跡未告示
 - 名勝指定範囲
 - 有料区域
 - 南蛮練塀

図 1-1 特別史跡指定地の範囲
及び南蛮練塀の位置



写真 1-1 南蛮練塀（遠景 南西側から撮影）



写真 1-2 南蛮練塀（近景 南西側から撮影）



写真 1-3 南蛮練塀（近景 南東側から撮影）

1-2. 現況把握について

- ・オルソ画像を作成し、画像に現況（令和元年度時点）のひび割れ、欠損、傾斜等の位置を示した

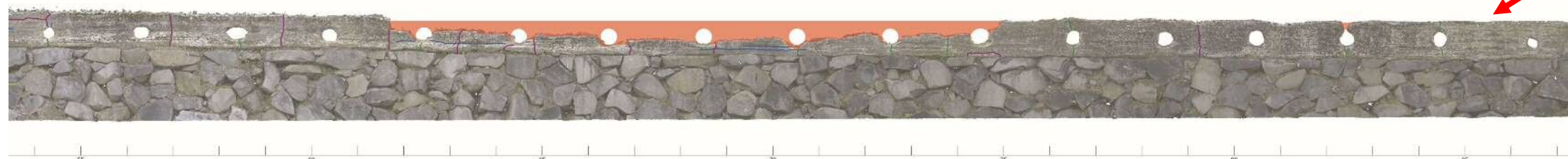


図 1-2 南蛮練塀現況（オルソ画像、例：北面西側部分）
※画像は H26 年度撮影、凡例の位置は R 元年度作成



写真 1-4 南蛮練塀（遠景 北西側から撮影）

- 凡例
- 目地(推定)
 - クラック
 - 割れ
 - 欠損・抜け

2. 史料

2-1. 史料の概要

江戸時代における二之丸庭園南蛮練塀の様相を伝える主な史料としては下記の文献史料・古絵図・古写真を挙げることができる。

【文献史料】

(1) 金城温古録 (名古屋市蓬左文庫・名古屋市鶴舞中央図書館等所蔵) (→図 2-1)

尾張藩士の奥村得義が著した文献。名古屋城の故事来歴を詳細にまとめている。江戸時代後期から明治初期にかけて編纂された。

【古絵図】

(2) 中御座之間北御庭惣絵 / 景観年代：寛永年間 (名古屋市蓬左文庫所蔵)

初代藩主義直時代の二之丸北庭の様子を描いたと考えられる絵図。

(3) 御城御庭絵図 / 作成年代：文政年間 (名古屋市蓬左文庫所蔵)

第10代藩主斉朝により改修された二之丸庭園を詳細に描いた絵図で、文政年間に作成されたと考えられる。

(4) 御城二之丸図 / 作成年代：天保13年以降 (名古屋城総合事務所所蔵)

江戸時代後期の二之丸全体を描いた図。

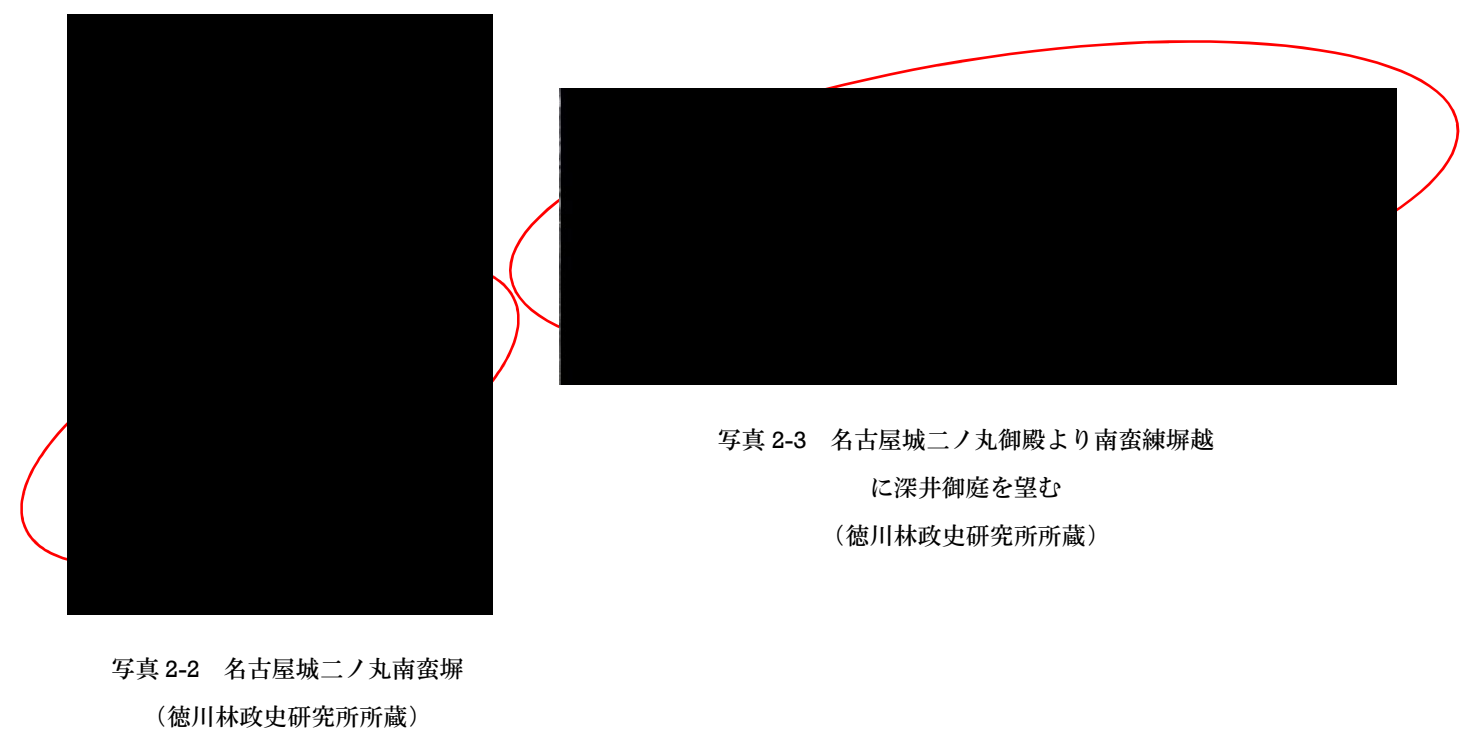
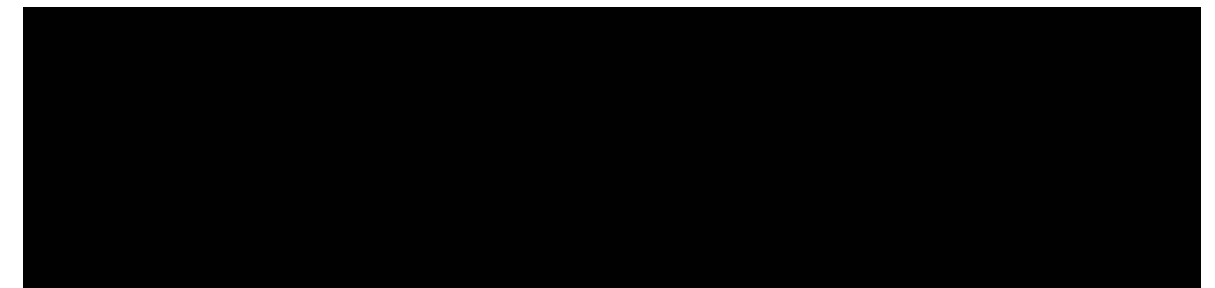
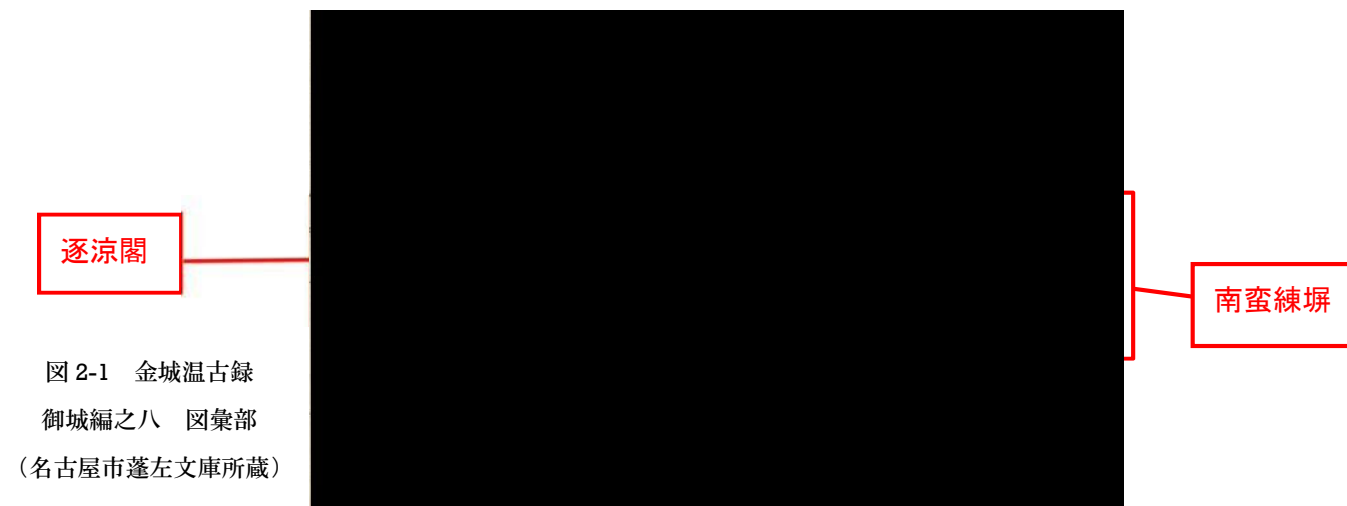
【古写真】

(5) 第14代藩主慶勝による撮影写真 (徳川林政史研究所所蔵) (→写真 2-1・2・3、赤枠部分が南蛮練塀)

幕末に第14代藩主慶勝によって撮影された写真。南蛮練塀に関する写真は8枚程度確認されている。

2-2. 文献史料・古絵図・古写真から得られる情報

- ・少なくとも文政期以前 (1818年以前) には建造されていた。
- ・「惣南蛮練」の構造で、「御練塀」や「塩御築地」と称されていた。
- ・文政期以降の様相として、本瓦葺きの屋根・鉄炮狭間・須柱が存在したことが確認される。
- ・幕末にはおよそ「四十三間五尺」の長さであった。
→現在のメートルに単純換算すると約79.33mであり、現存する遺構の長さともほぼ合致する。
- ・古写真との比較から、現存する遺構は少なくとも幕末から連続するものと考えられる。



3. 発掘調査

南蛮練堀下の構造を確認するため、平成 27 年度(2015)と令和元年度(2019)に発掘調査を行った。

トレンチ 1 において、練堀を造る際に整備した痕跡と思われる灰黄褐色土と礫を確認した(図 3-2)。トレンチ 3 では、整備した痕跡と思われる礫などは確認できなかった(図 3-3)。

トレンチ 4 の T1(北西隅サブトレンチ)では、練堀に伴う盛土を確認した。盛土の高さは約 90 cm で、練堀の南側に土塁を形成していたと思われる。この土塁の下に土台となる盛土が 3 層みられた。これらの層は非常に固く締まっており、この直上から練堀が築かれている。礫による整備は確認できなかった(図 3-4・図 3-5)。T2(北東隅サブトレンチ)でも同様に土塁とその下の土台となる盛土を確認した。T1(北西隅サブトレンチ)と異なり、円礫の上から練堀が築かれている(図 3-6・図 3-7)。円礫は非常に固く締まった明赤褐色粘質土層上に配置されていた。

以上より、練堀下は盛土や礫で整備している箇所を確認できたが、礫を伴わない箇所もあり一定ではない。また、近世の北園路は現在の地表面より 90 cm ほど低いことが判った。現在は練堀の鉄砲狭間が地表面に近いが、近世当時は練堀南側に土塁を伴い、直立して鉄砲を撃てる高さに狭間が位置していたと思われる。

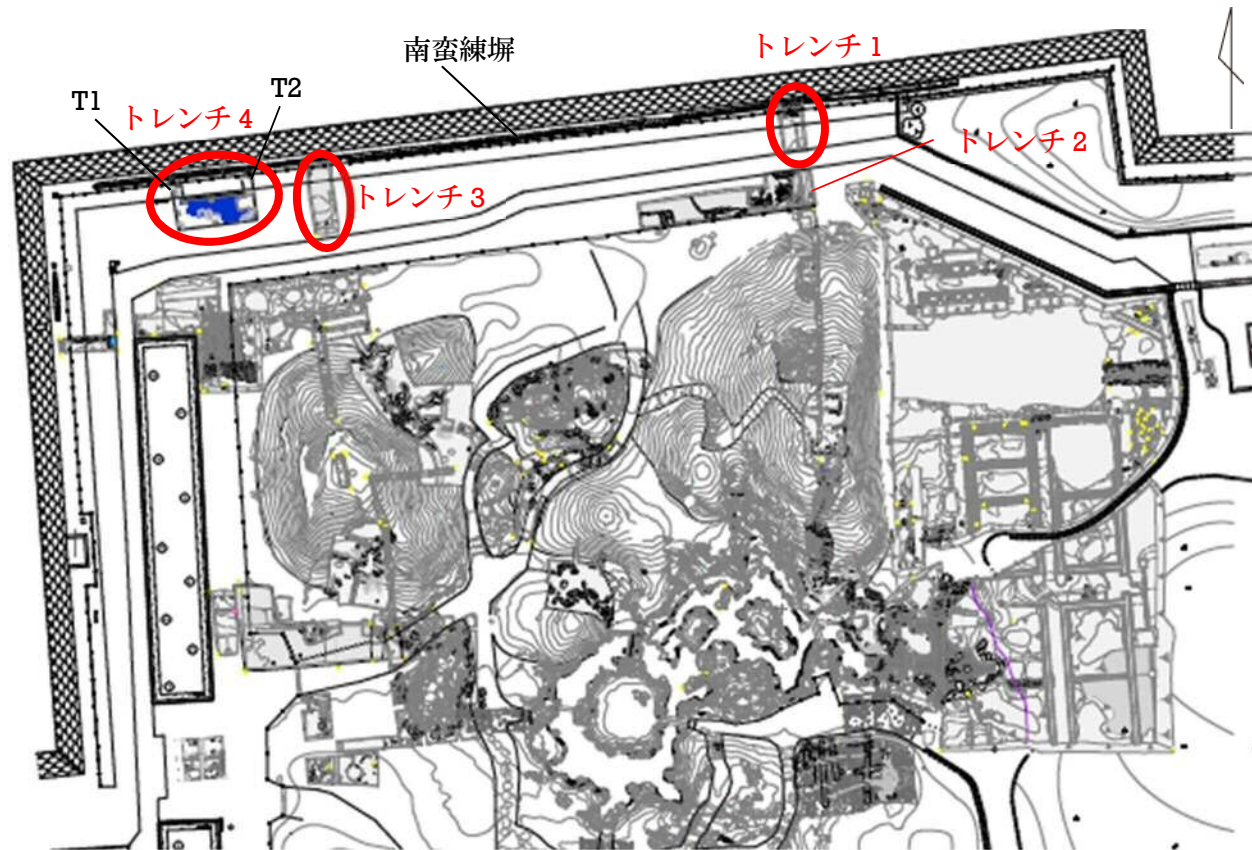


図 3-1 二之丸庭園発掘調査位置(部分)



図 3-2 トレンチ 1 練堀下の状況(南から)



図 3-3 トレンチ 3 練堀下の状況(南から)



図 3-4 トレンチ 4 (T1) 練堀下の状況(南から)



図 3-5 T1 練堀下の状況拡大(南から)



図 3-6 トレンチ 4 (T2) 練堀下の状況(南から)



図 3-7 T2 練堀下の状況拡大(南から)

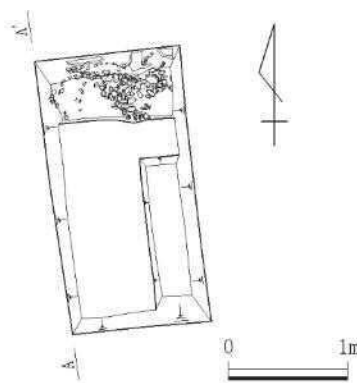
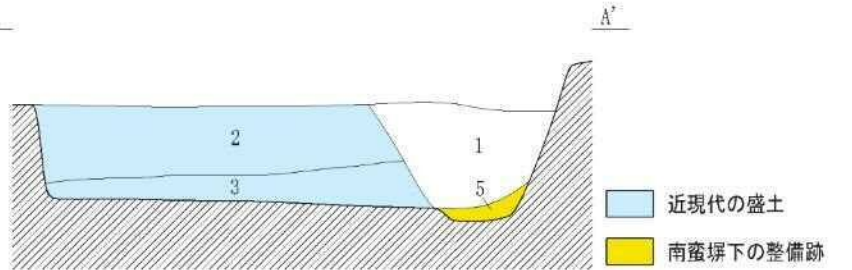


図 3-8 トレンチ1遺構平面



- | | | | | |
|---|---------|-------|-------|---------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | しまりあり | 粘性あり (攪乱) |
| 2 | 10YR4/1 | 褐灰色土 | しまりあり | 粘性あり |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 | しまりあり | 粘性あり |
| 4 | 10YR5/2 | 灰黄褐色土 | しまりあり | 粘性あり (雨落ち溝埋土) |
| 5 | 10YR5/2 | 灰黄褐色土 | しまりあり | 粘性あり |

図 3-9 トレンチ1断面

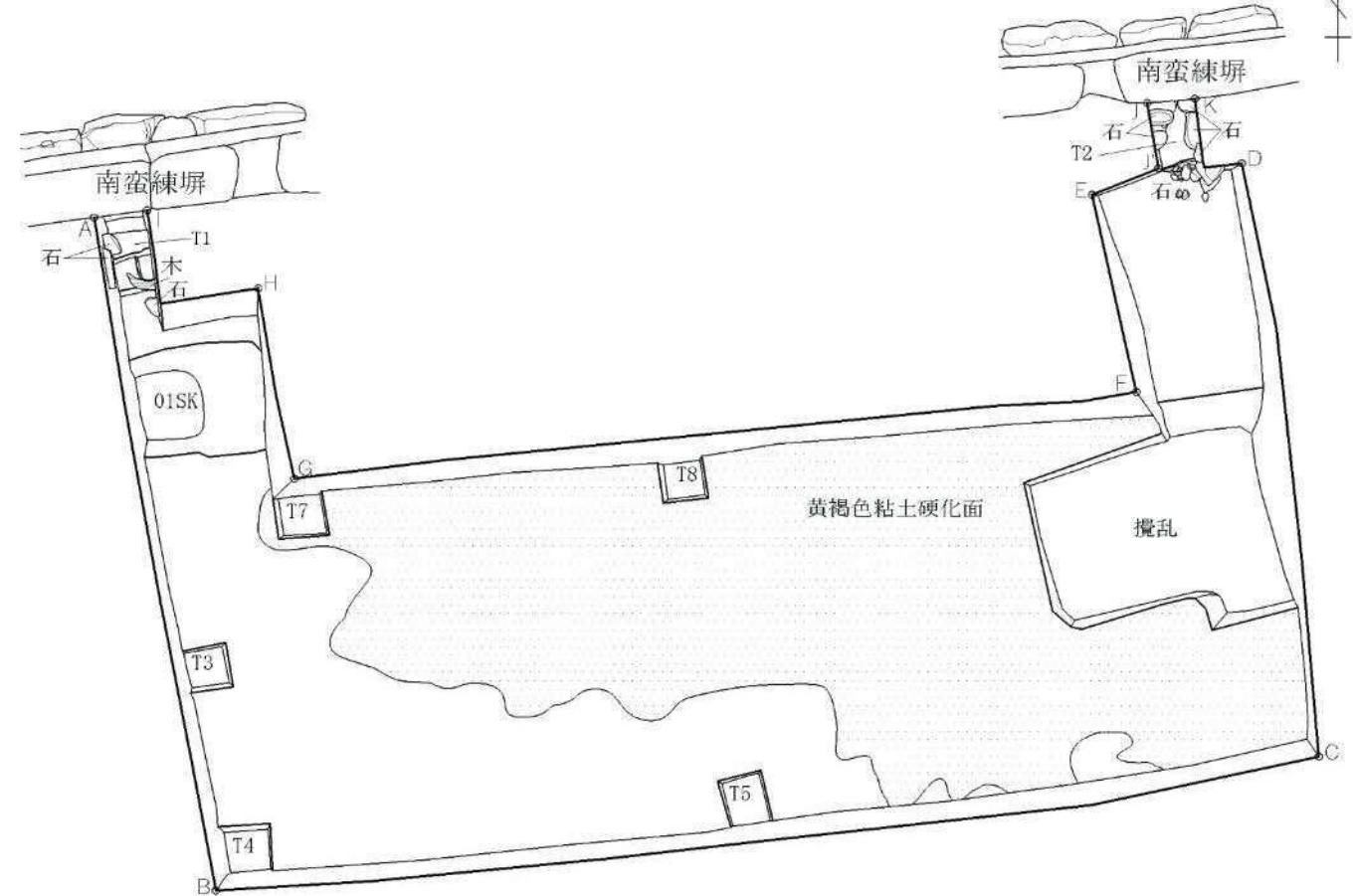


図 3-13 トレンチ4遺構平面

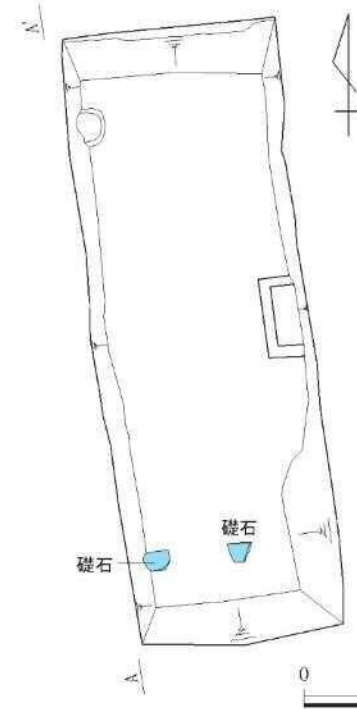
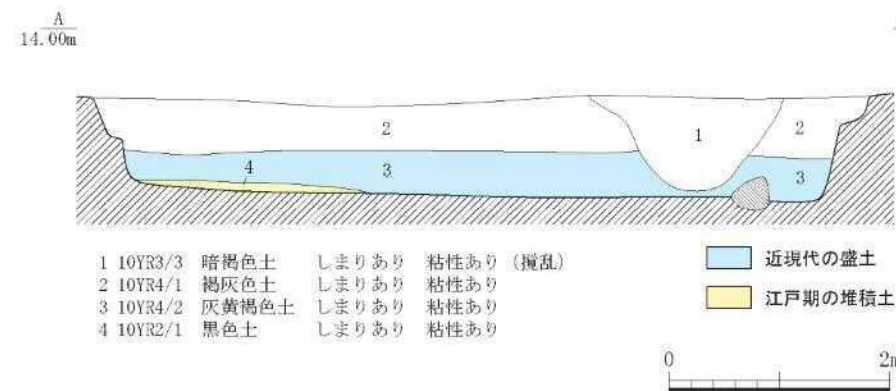


図 3-10 トレンチ3遺構平面



- | | | | | |
|---|---------|-------|-------|-----------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | しまりあり | 粘性あり (攪乱) |
| 2 | 10YR4/1 | 褐灰色土 | しまりあり | 粘性あり |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 | しまりあり | 粘性あり |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色土 | しまりあり | 粘性あり |

図 3-11 トレンチ3断面

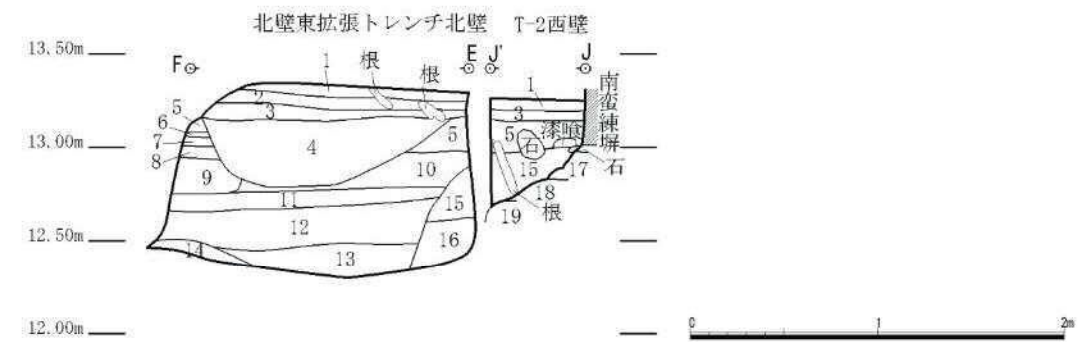


図 3-14 トレンチ4北壁東拡張トレンチ北壁・T-2西壁断面

- 1 : 7.5Y6/1 灰色砂質土層 表土 小礫多量に混入。
 2 : 5Y8/6 黄色鎖砂層 小礫多量に混入、表面硬し。
 3 : 7.5y3/1 黒褐色シルト質土層 硬く締まる。直上面は硬化面。上面が戦後の園路面となっている。層中混入物なし。
 4 : N3/ 暗灰色シルト質土層 炭化物粒多量に混入。礫、瓦もみられる。近代以降の遺構の埋土。
 5 : 7.5Y5/2 灰褐色シルト質土層 小礫多量に混入、瓦、ガラスなどの近代遺物が出土。貝(シジミ)も少量混入。
 6 : 5YR3/1 黒褐色シルト質土層 直上面は硬化面を形成。戦後直後の生活面を形成。層中混入物なし。
 7 : 2.5Y5/1 黄灰色シルト質土層 小礫混じり、瓦、ガラス等の近代遺物が出土。
 8 : 7.5Y8/2 灰白色砂質土層 漆喰状の層が北壁東端から北壁中央まで面的に広がる。締まりがなくバサバサである。陸軍関連の構造物の床面を構成している可能性がある。
 9 : 2.5Y4/1 黄灰色シルト質土層 小礫、シジミ貝が多量に混入。近代以降の遺構の埋土か？
 10 : 2.5Y5/1 黒褐色シルト質土層 硬く締まりに西側ではこの層直上に砂利が乗る。この層の上面は硬く締まる。この層の上面が近代陸軍の生活面を構成する可能性がある。
 11 : 10YR5/1 褐灰色シルト質土層 礫、瓦、三和土塊、貝(シジミ)を含む。近代の整地層。調査区内全面にみられる。特に瓦(ほとんどが煉瓦)が目立つが、ガラス・レンガなどの近代遺物は含まない。
 12 : 2.5Y5/1 黄灰色砂質土層 礫をわずかに含む。瓦が少量出土。鉛玉出土。
 13 : 2.5Y4/1 黒灰色シルト質土層 礫が少量混入。近代以降の遺構面。
 14 : 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土層 薄いが直上面が硬く締まる。小礫、瓦片わずかに含む。この層の直上で砂利層とともに火縄銃の鉛玉出土。
 15 : 7.5YR4/1 褐灰色シルト質土層 小礫、漆喰片わずかに混入。近世か。南蛮練塀に伴う盛土か。
 16 : 7.5YR4/1 褐灰色シルト質土層 小礫、黄色ブロック、瓦混入。近世の土層か。南蛮練塀に伴う土塁の可能性が高い。
 17 : 5YR5/8 明赤褐色粘質土層 白色粒子(貝殻を粉状にしたものか)、小礫が混入。非常に硬く締まる。南蛮練塀の基礎の一部。近世と判断。
 18 : 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土層 白色粒子(貝殻を粉状にしたものか)混入。硬く締まる。南蛮練塀の基礎の一部。近世と判断。
 19 : 10YR5/1 褐灰色シルト質土層 黄色土、黒色土粒、橙色ブロック(タタキか)混入。近世と判断。

- T1北壁
 10 : 2.5Y4/1 黄灰色シルト質土層 貝殻、タタキ片、瓦片、小礫が混入。硬く締まる。南蛮練塀が直接乗る。近世。南蛮練塀の基礎にあたるか。
 2 : 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土層 白色粒子(貝殻を粉状にしたものか)混入。硬く締まる。10層と同じ南蛮練塀の基礎の一部。
 21 : 10YR3/1 黒褐色シルト質土層 にぶい黄色粘土ブロック、漆喰塊ブロック混入。近世。南蛮練塀の基礎。
- T2北壁
 1 : 5YR5/8 明赤褐色粘質土層 白色粒子(貝殻を粉状にしたものか)、小礫を混入。非常に硬く締まる。南蛮練塀の基礎の一部。近世と判断。
 2 : 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土層 白色粒子(貝殻を粉状にしたものか)混入。硬く締まる。南蛮練塀の基礎の一部。近世と判断。=T1北壁2層
 19 : 10YR5/1 褐灰色シルト質土層 黄色土、黒色土粒、橙色ブロック混入。層位から近世と判断。
- 東拡張区北壁
 1 : 7.5Y6/1 灰色砂質土層 表土 小礫多量に混入。
 3 : 5Y8/6 黄色鎖砂層 小礫多量に混入、表面硬し。
 4 : 2.5Y4/1 黄灰色シルト質土層 小礫混入。擬木杭の掘方。コンクリート塊を基礎とする。コンクリートの一部が露出。擬木は公園整備に伴うもので昭和40年代に設置。
 5 : 10YR5/1 褐灰色シルト質土層 小礫、タタキ塊混入。近代以降。
 6 : 7.5YR4/1 褐灰色シルト質土層 小礫、漆喰片僅かに混入。近世か。南蛮練塀に伴う盛土か。
 7 : 10YR5/1 褐灰色シルト質土層 黄色土、黒色土粒、橙色ブロック(タタキか)混入。塀に伴う盛土か。層位から近世と判断。
 8 : 礫層 5~50cmの角礫、円礫からなる。層位から近世と判断。

図 3-12 トレンチ4南蛮練塀下断面

4. 応急対策素案

4-1. 劣化原因の推定等

1. 目視調査等からの南蛮練塀の劣化状況 (R4年6月時点)

- ・下半では表層が崩落してオーバーハングしている。
- ・上半では、上端面で所々蘚苔類が繁茂する表面が剥離し、新鮮な面が露出する箇所が散見される。

2. 推定する劣化原因

劣化の箇所	推定する劣化原因	備考
下半表層	乾湿の繰り返し	<ul style="list-style-type: none"> ・水の供給で湿った南蛮練塀に、南からの直達日射や北風が強く当たることによって、水分蒸発が促進され、その際、南蛮練塀表面において急激に水分量が低下し、体積変化を生じたことが主たる劣化原因と推察される。 ・南蛮練塀の湿潤状態は、雨水(上から水がかかる)よりも、設置された場所の水はけが悪い(土に接する部分から毛管現象で水をあげる)ことのほうが原因と考えられる。 ・水の供給源は水はけが悪い南側敷地と考えられる。
上端面	凍結破砕	<ul style="list-style-type: none"> ・劣化の箇所では直上に高木はなく、露天に曝された状態にある。 ・昔の写真にはなかったサクラが植えられて現在は大きくなり、日陰をつくったり、放射冷却による凍結等を抑制したりしている可能性が高い。 ・一方で、サクラの根の肥大成長によって南蛮練塀の構造的な不安定性が増している可能性がある。

※独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所保存修復科学研究室長脇谷氏現地ご指導内容



写真 4-1 南蛮練塀劣化状況 1



写真 4-2 南蛮練塀劣化状況 2

4-2. 応急対策素案

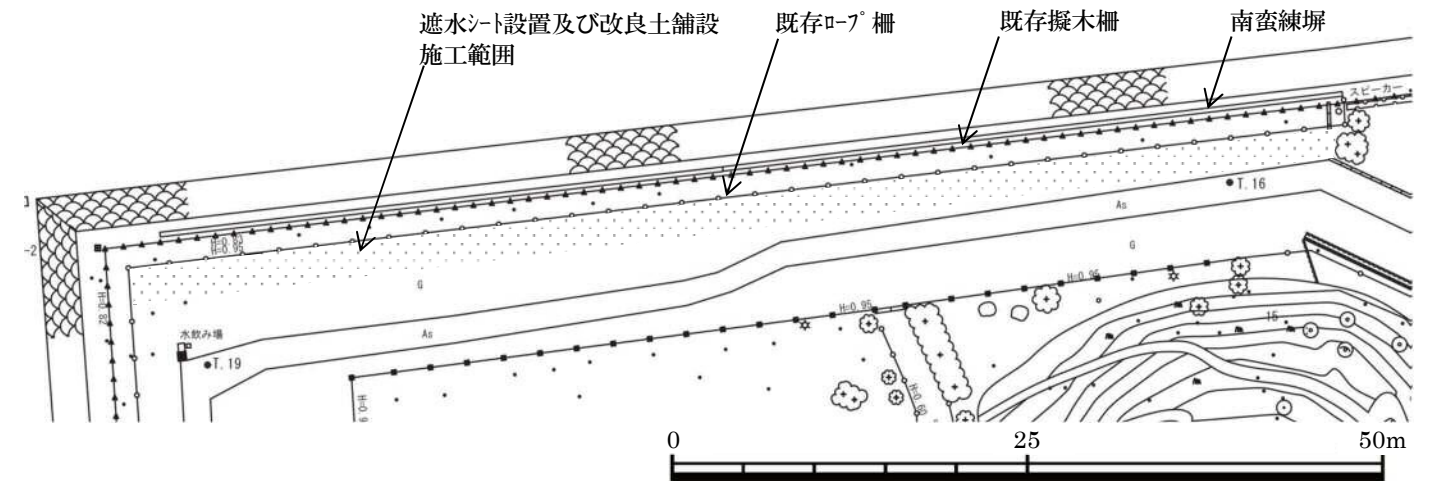
1. 目的

- ・南蛮練塀の劣化の進行を抑えるため、水分供給を減らす環境をつくる

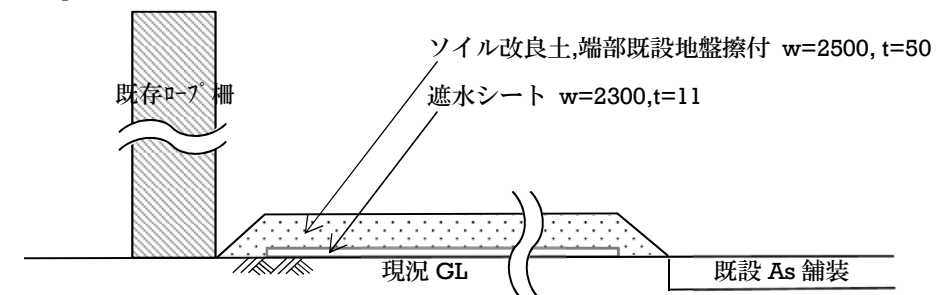
2. 対策案

- ・雨水の浸透を少しでも抑制するため、南蛮練塀南側に遮水シートを設置する

【施工範囲】



【構造図】



第32回部会資料 (ご意見等を踏まえて今回再検討)

4-3. 今後の予定

- ・南蛮練塀の保存管理方針の策定 (令和5年度以降)
- ・樹木根による構造的な不安定性やさらなる雨水浸透への改善策の検討

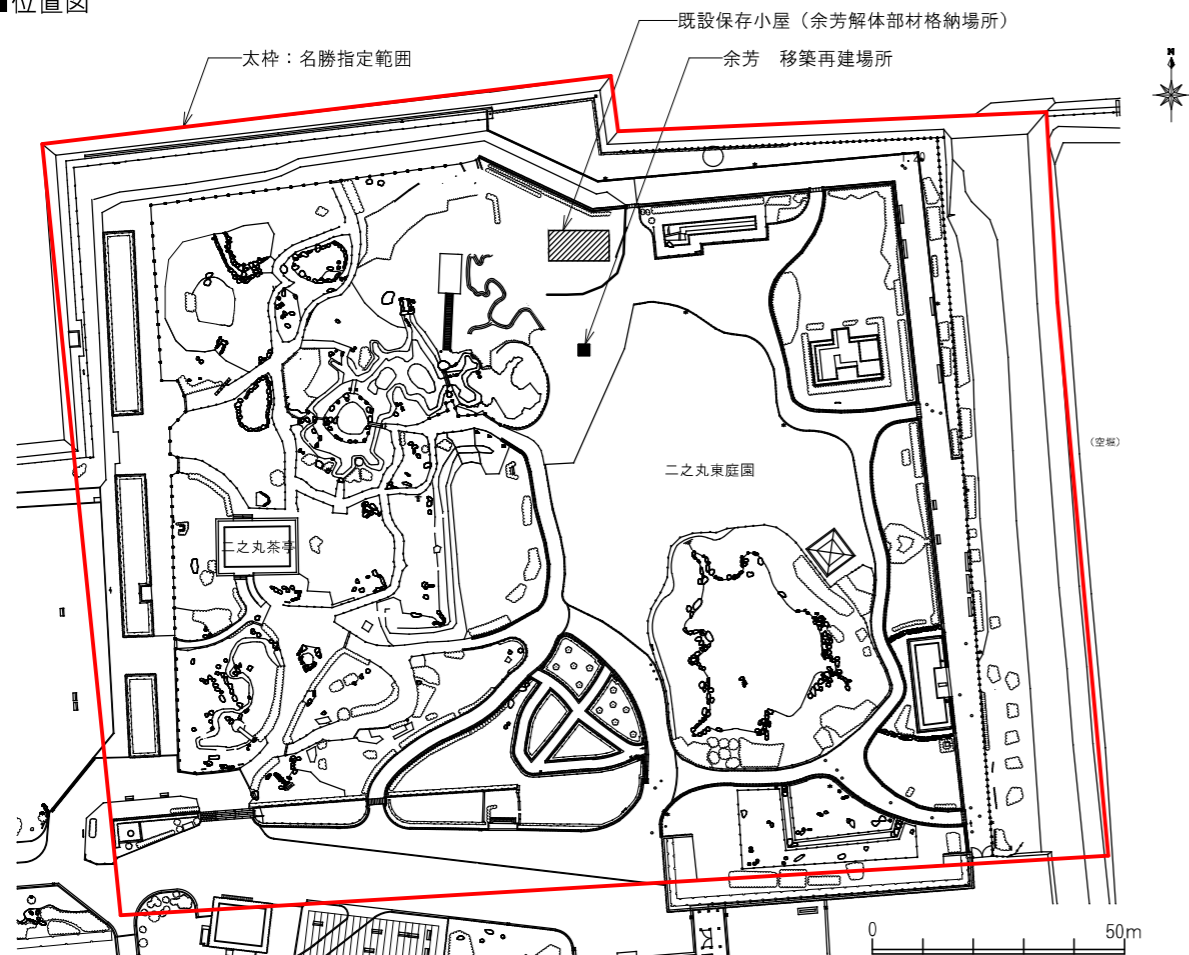
余芳の移築再建について

1 現状変更概要

■現状変更内容

名勝名古屋城二之丸庭園内に、「余芳」を移築再建する。
余芳の移築再建先立ち、再建場所TP13.8mにて平板載荷試験を実施後、仮囲い及び素屋根の仮設物を建設する。

■位置図



■事業の経緯

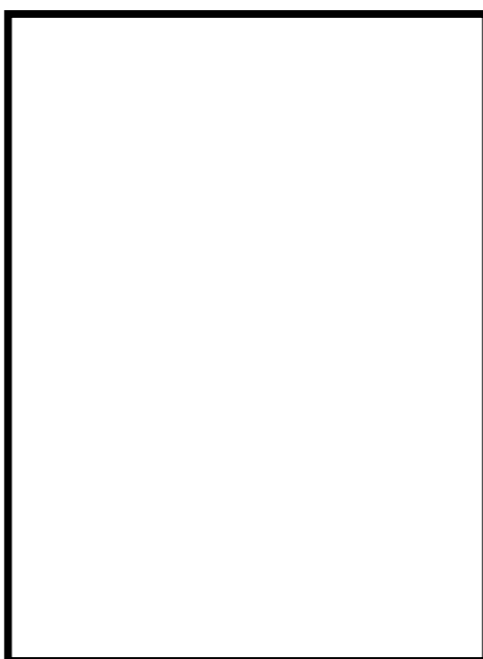
余芳は、文政年間（1818～22年）頃から明治4年まで、二之丸庭園に存在した建造物である。明治期に民間所有となった後、明治25年に一度目の移築と一部増築、昭和14年に二度目の移築を経て、昭和48年に「余芳亭」として便所部分を除く範囲で名古屋市の有形文化財の指定を受けた。

平成23年に名古屋市に寄附され、現在は解体されて構成部材の内、当初材が二之丸庭園内の保存小屋に格納されている。

名古屋市では、平成25年3月策定の「名勝名古屋城二之丸庭園保存管理計画」に基づき、平成25年度から二之丸庭園内の発掘調査を実施し、その発掘調査の成果を基に、文化庁の国庫補助金により、権現山、栄螺山、北園池等の修復整備を継続して行っている。

令和4年には、二之丸庭園全域を計画的に整備活用する事を目的とする『名勝二之丸庭園整備計画』を策定し、余芳を江戸期庭園の元の場所へ移築再建することを位置づけ、現在、庭園整備事業の一部として取り組んでいる。

余芳は、平成23年の解体後の調査報告書を基に、平成26年より余芳移築再建に向けた本格的な検討に着手し、史資料調査、部材痕跡調査、意匠分析調査を進めてきた。



余芳古写真：（表題）「二之丸庭園の御茶屋」（徳川林政史研究所蔵）

■配置図（現状変更を申請する範囲と内容）

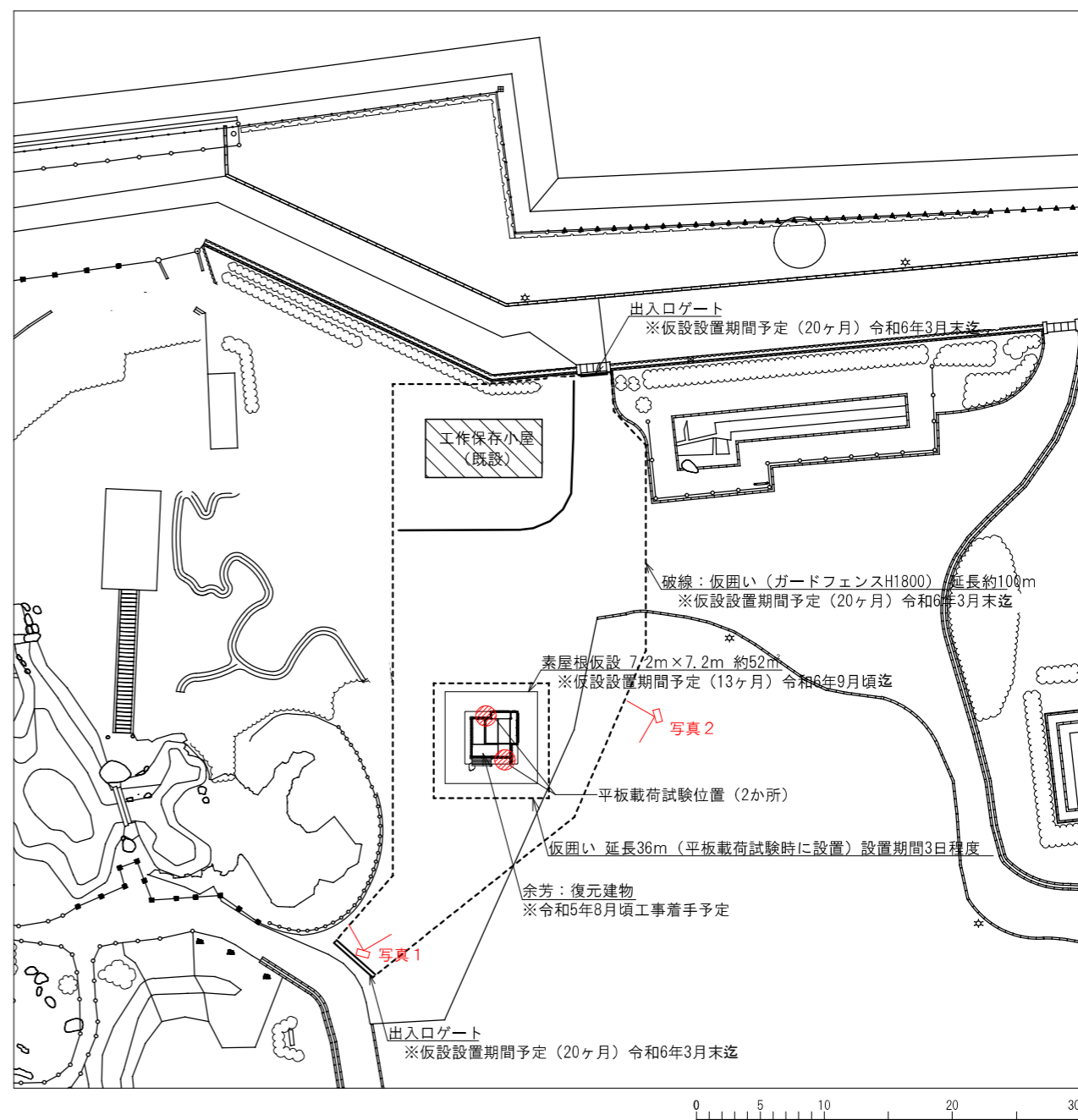
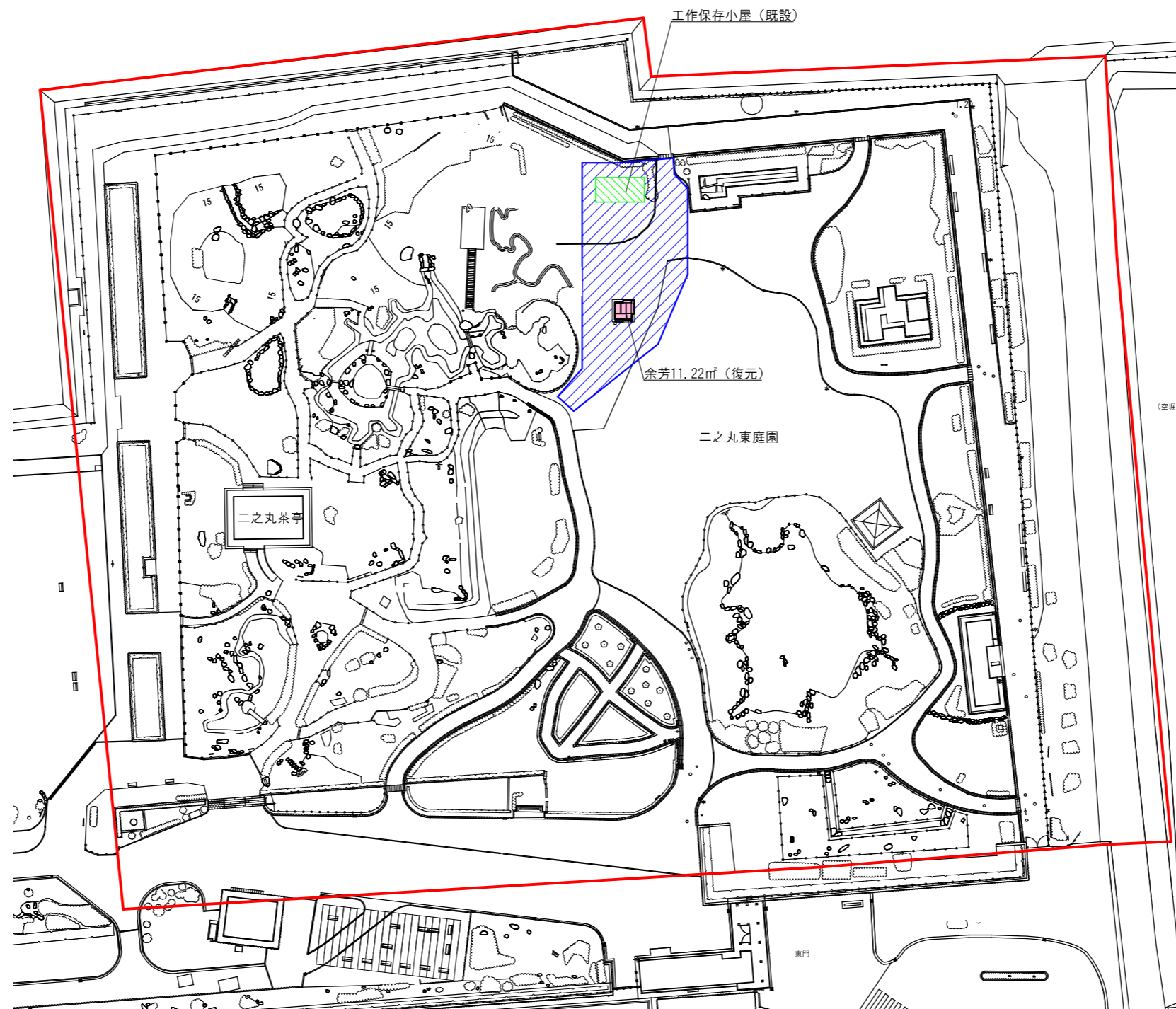


写真1 現在の状況（南側より撮影）

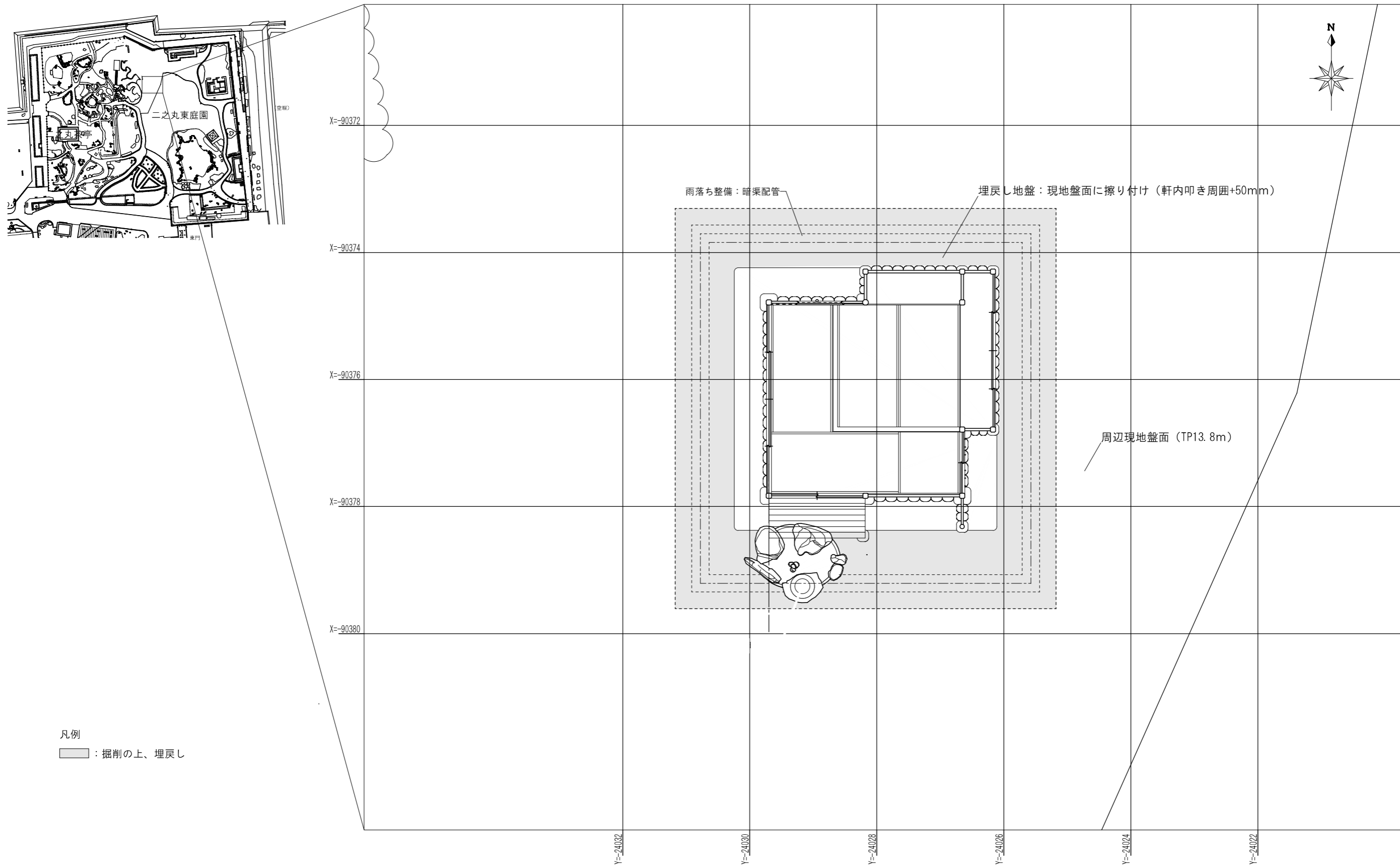


写真2 現在の状況（東側より撮影）

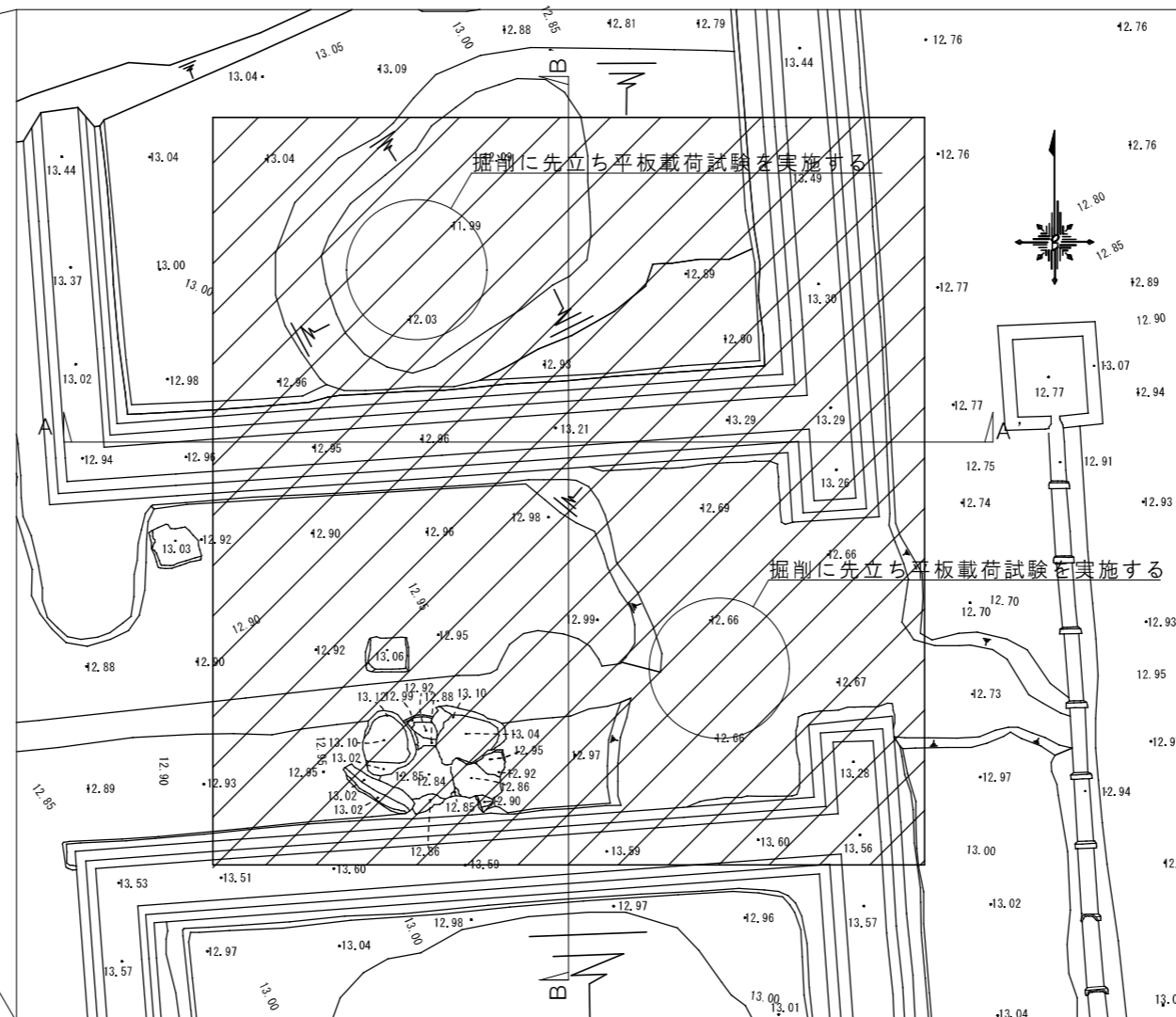
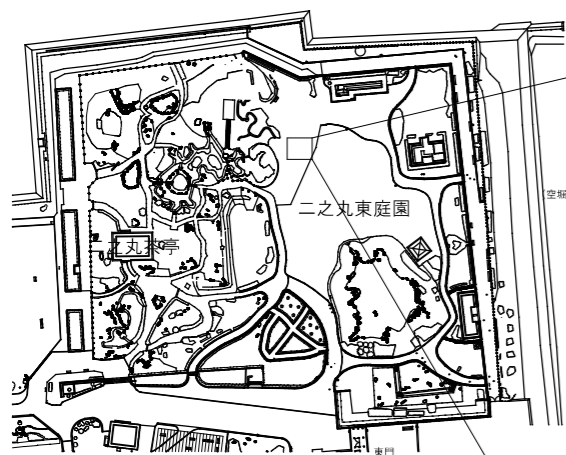


- 凡例
- 名勝指定範囲
 - 復元対象建物
 - 仮設物(既設)
 - 工事区域(約730㎡)

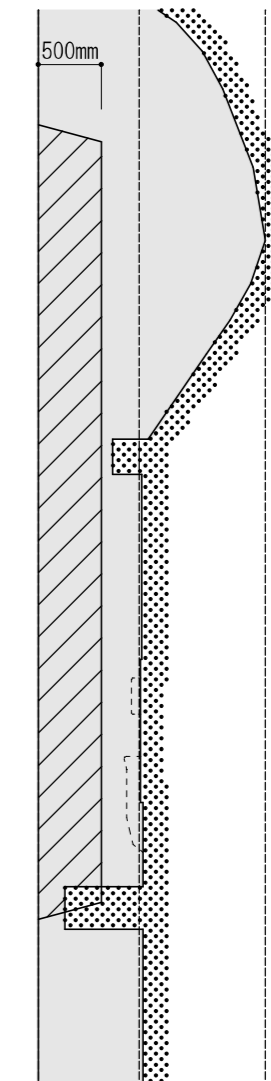
配置計画図 S=1:1000



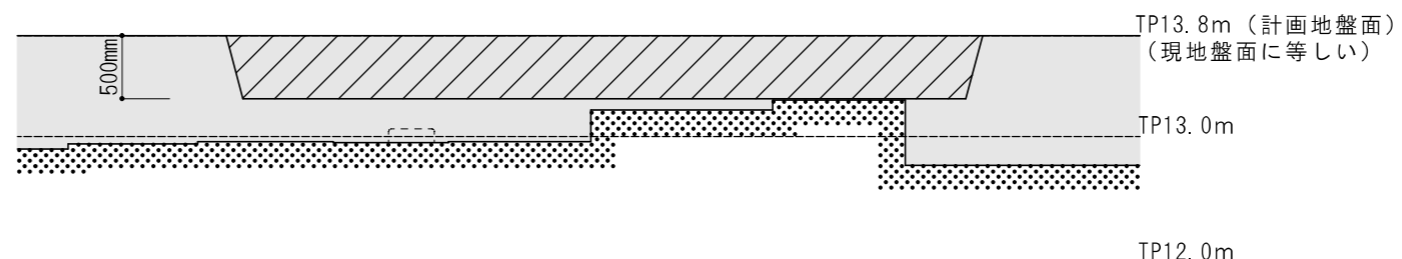
外構計画図 S=1:60



掘削範囲図（発掘調査図に記載） S=1:60

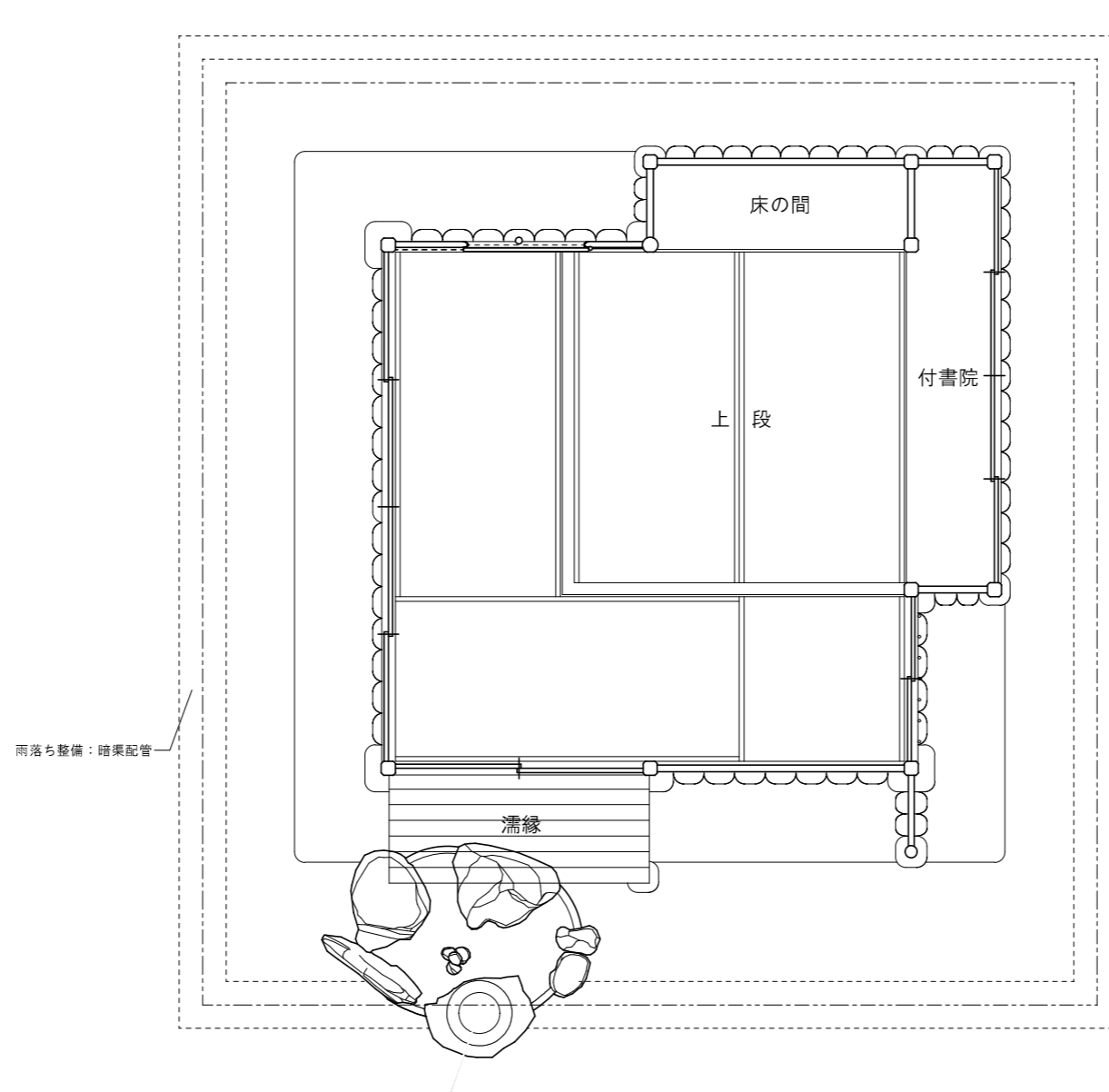


B-B' 断面図 S=1:60



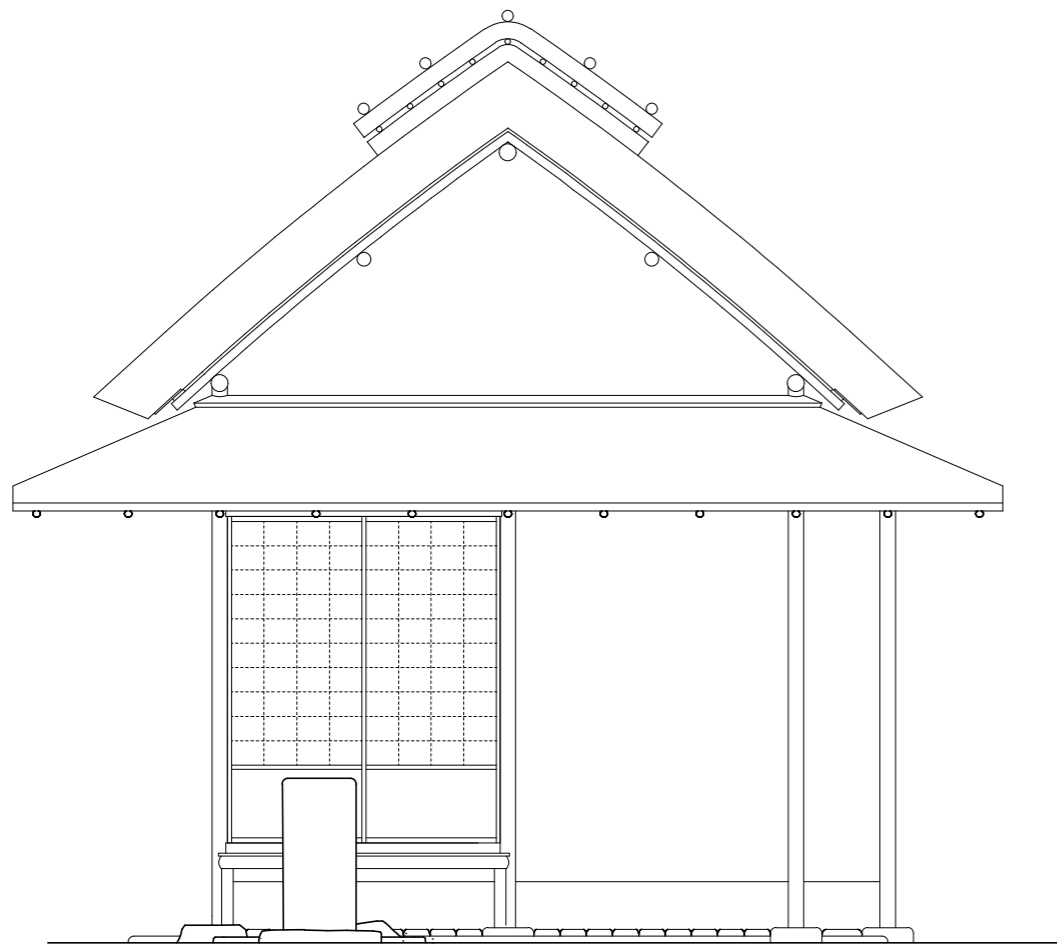
A-A' 断面図 S=1:60

- 凡例
- : 掘削範囲及び掘削断面
 - : 近現代の盛土
 - : 兵舎遺構及び近世の盛土層

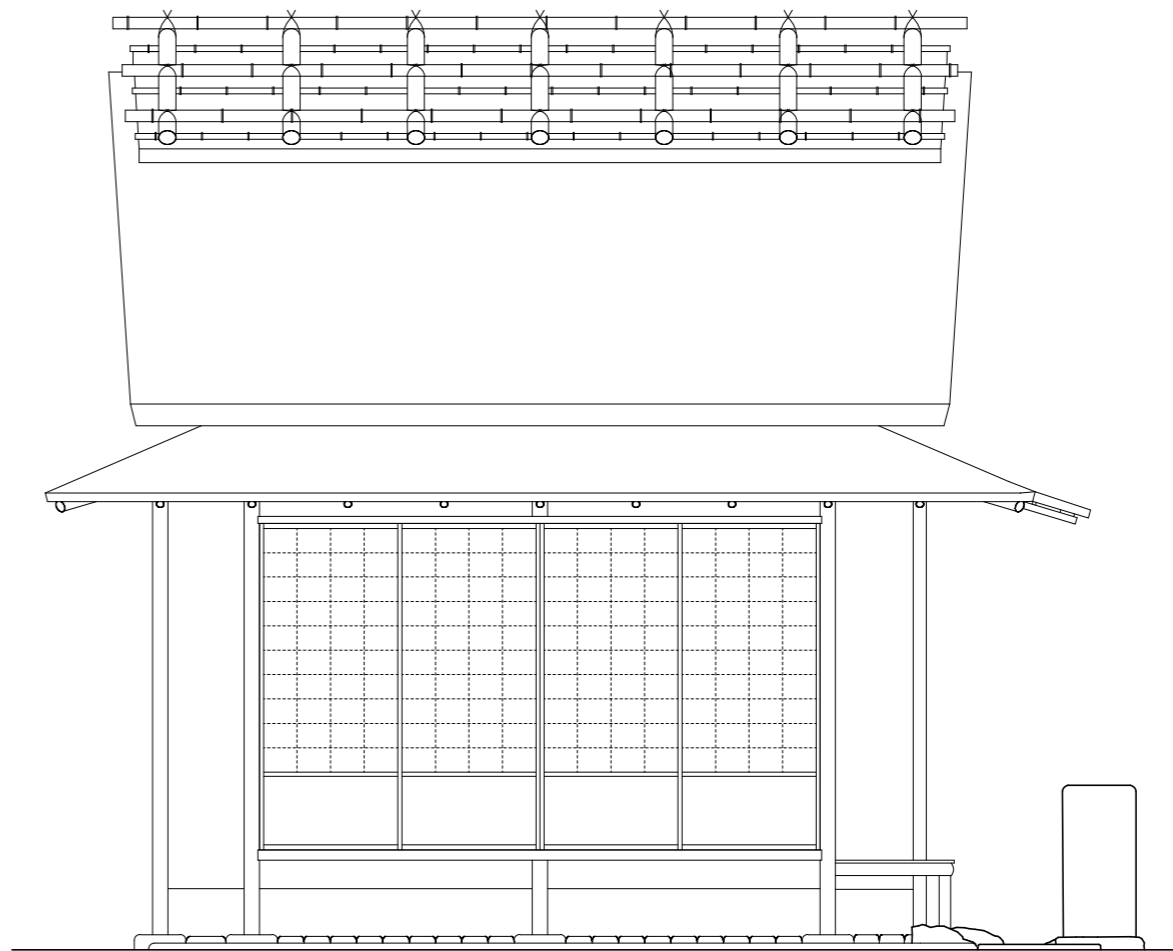


平面図 S=1:40



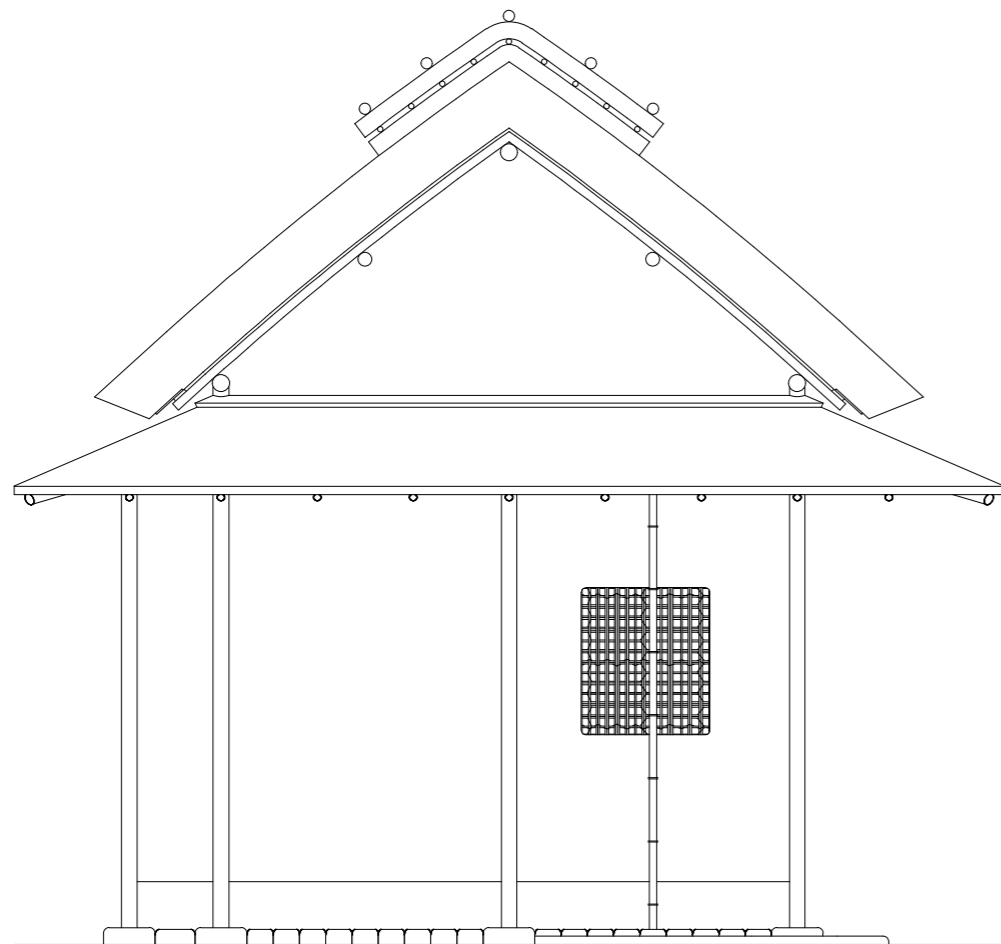


南立面図 S=1:40

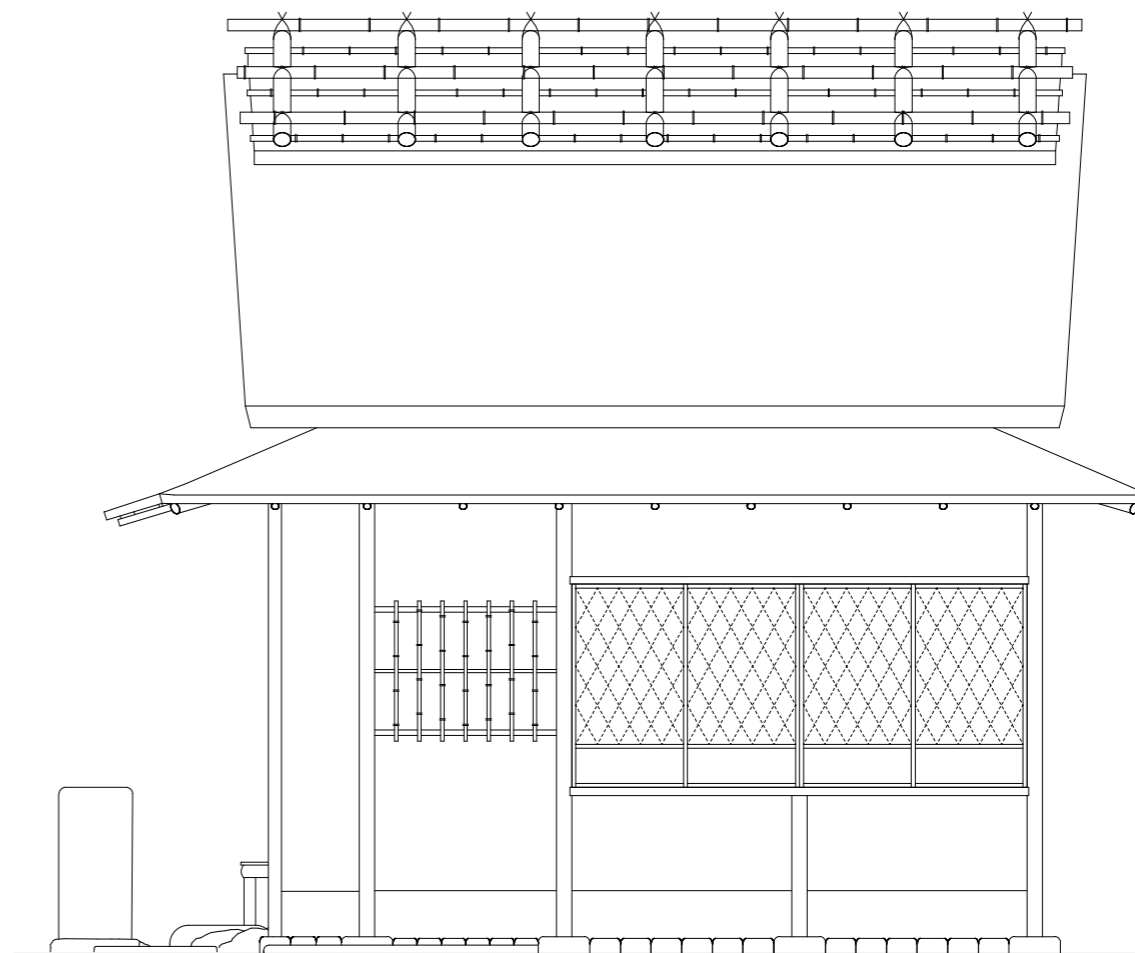


西立面図 S=1:40

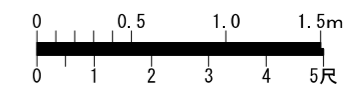


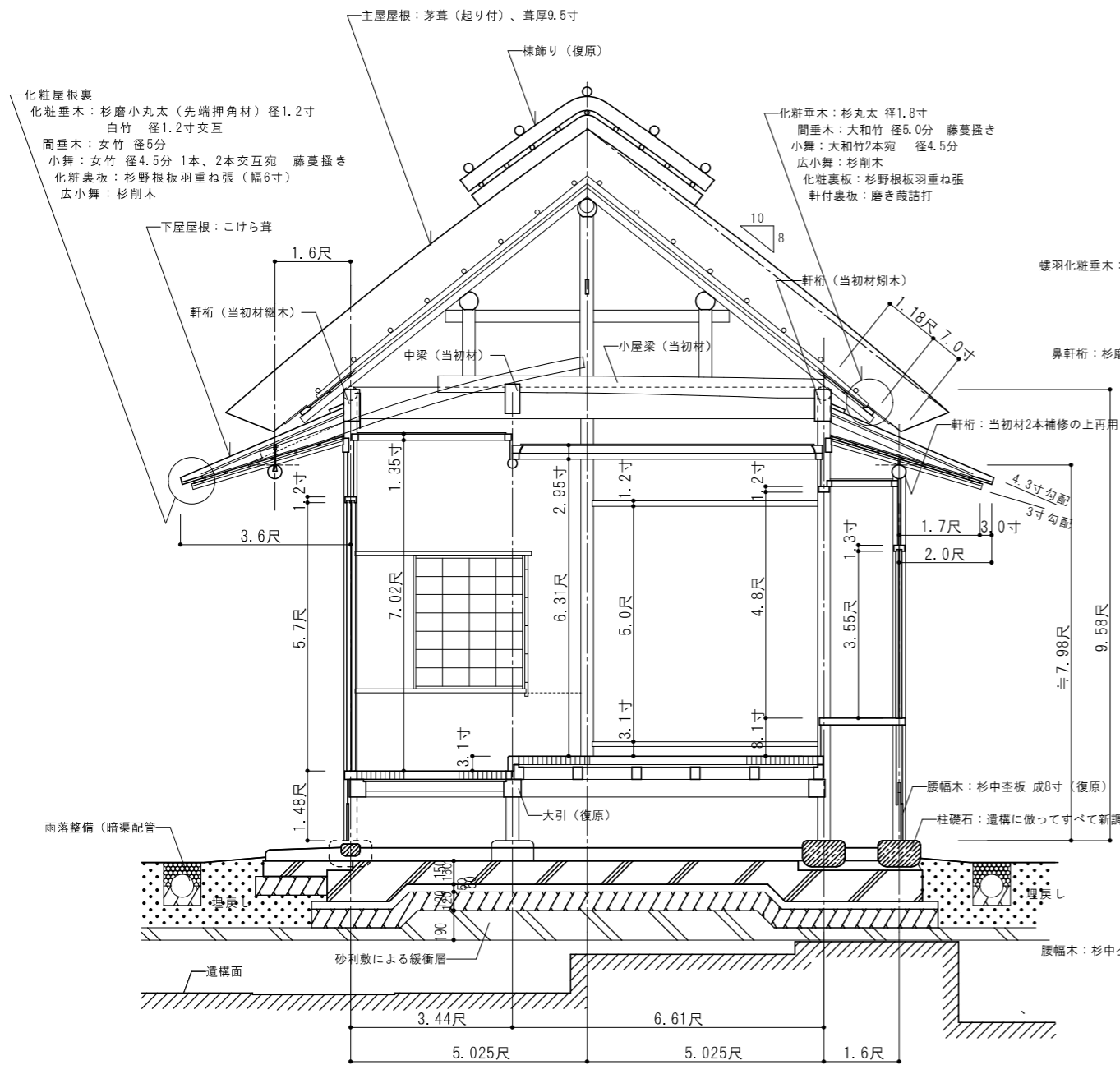


北立面図 S=1:40

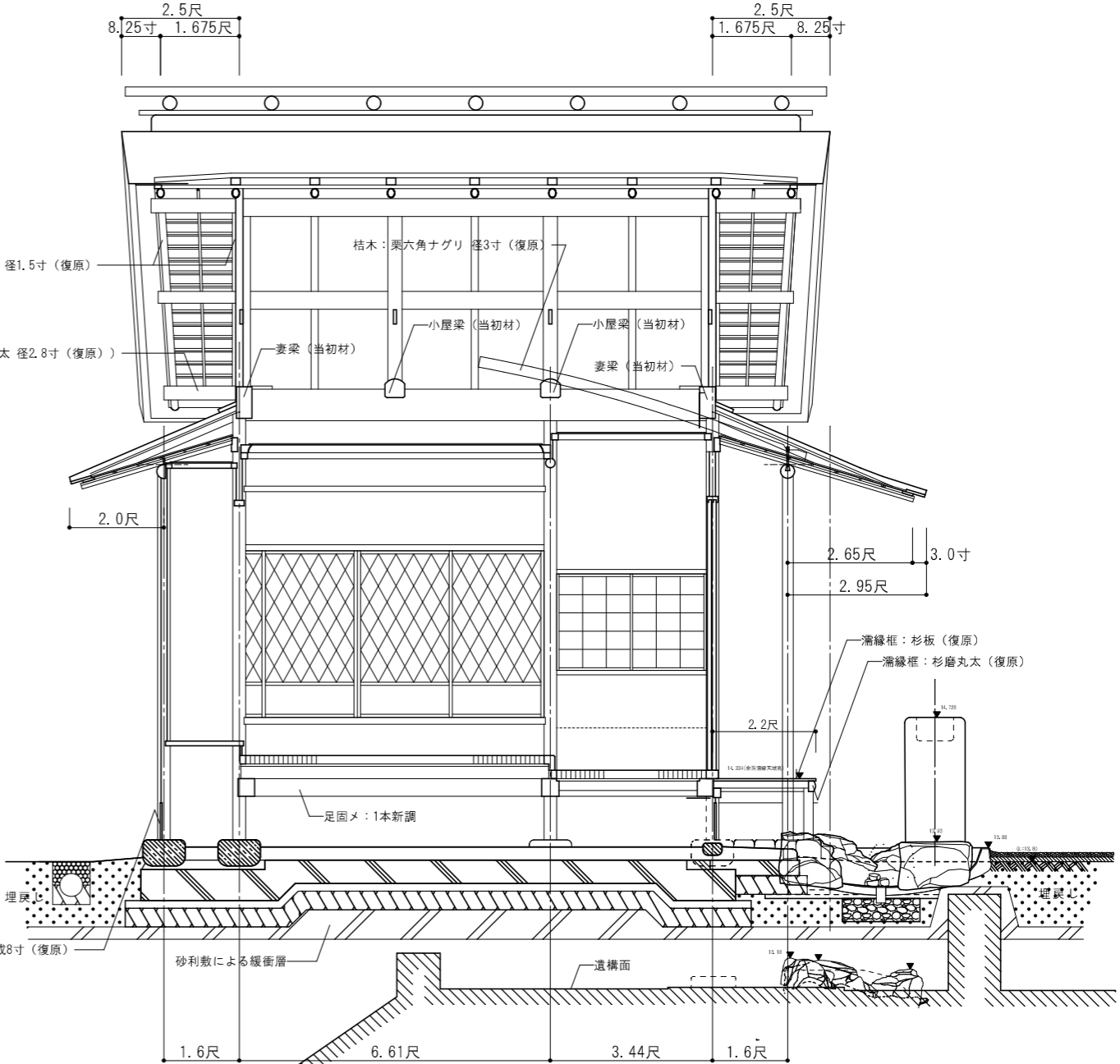


東立面図 S=1:40

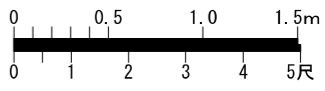


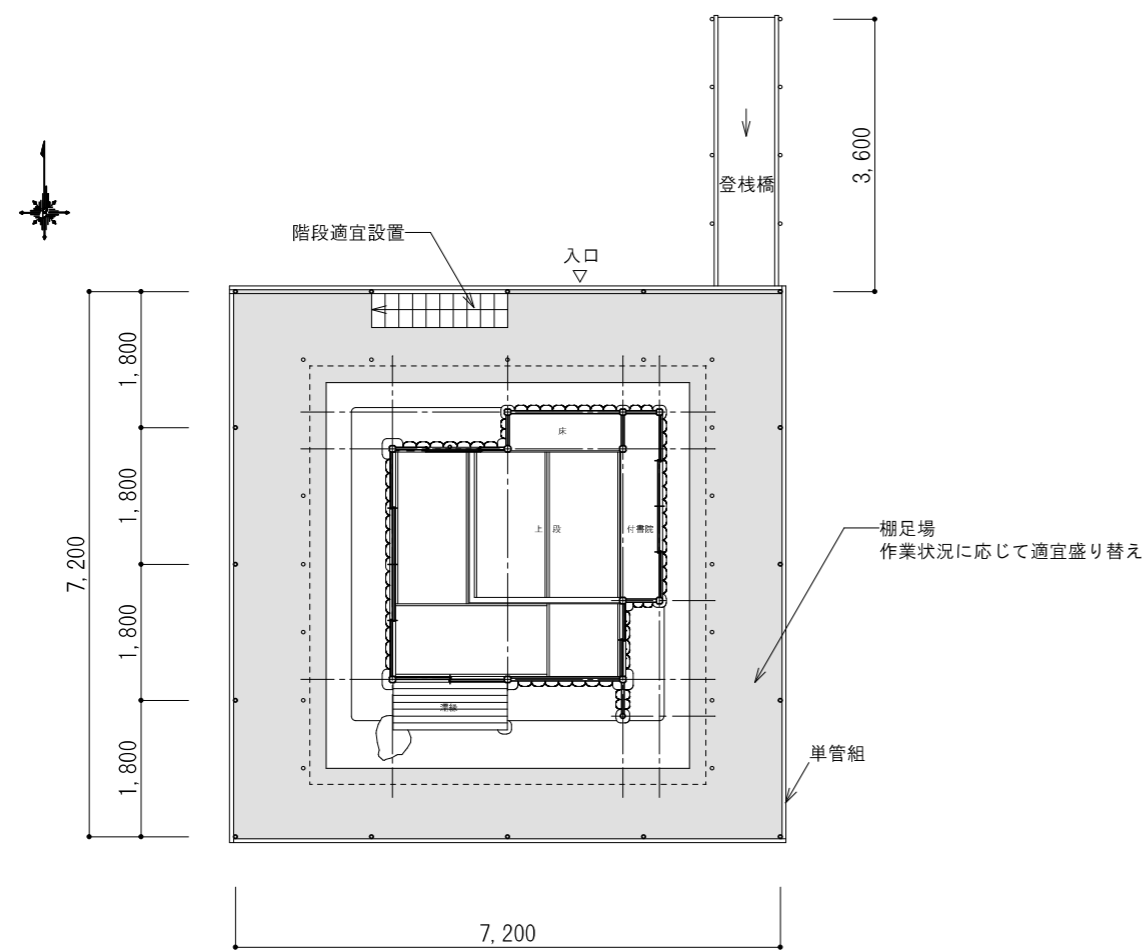


梁行断面図 S=1:40

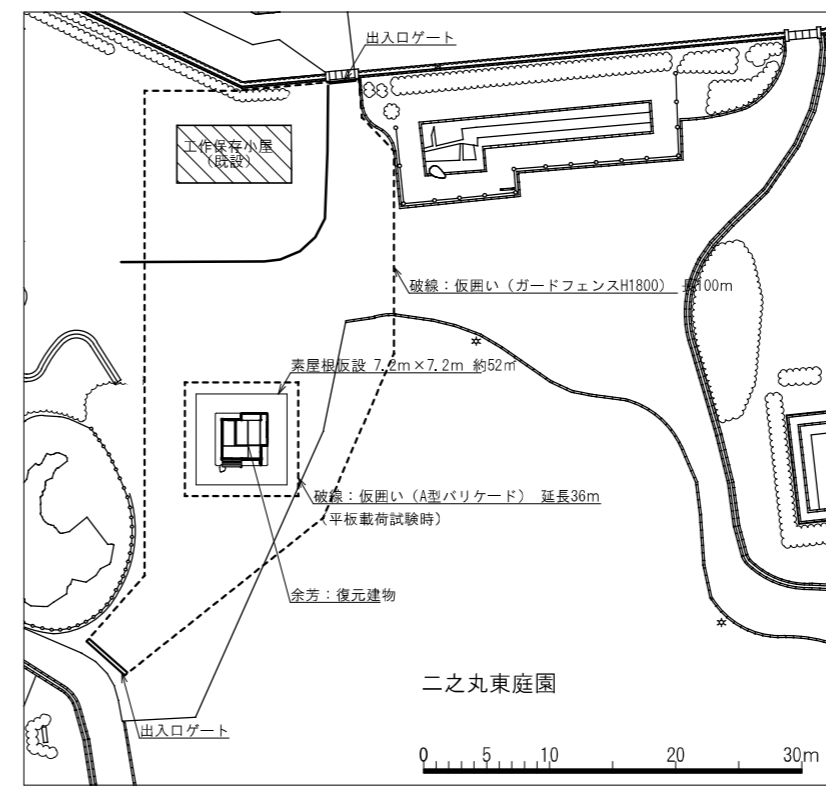


桁行断面図 S=1:40





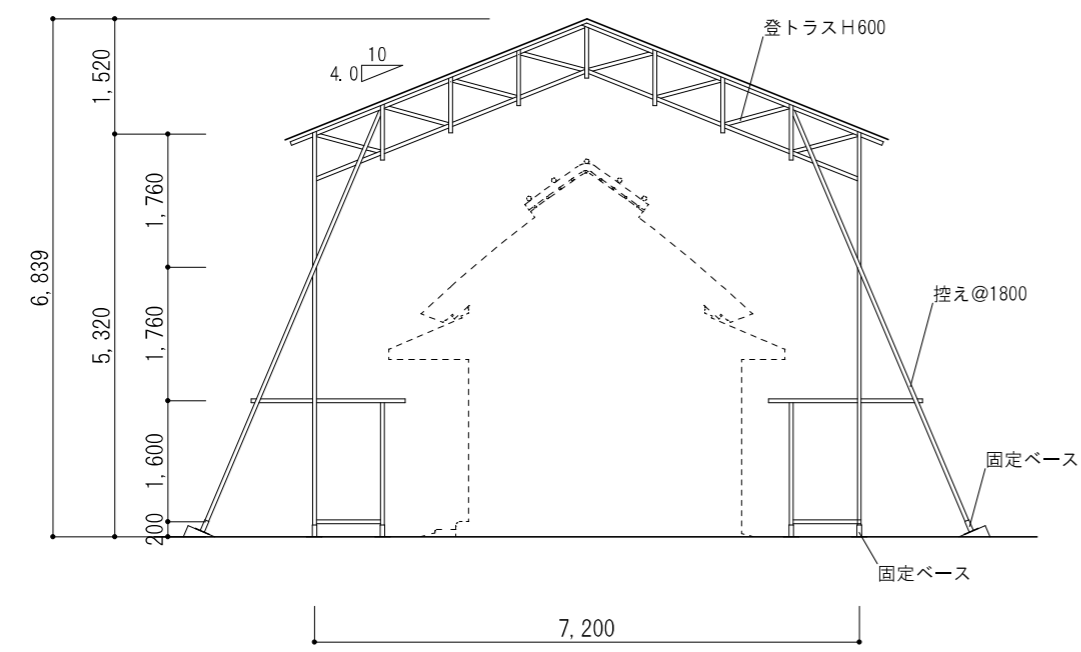
素屋根平面図 S=1:100



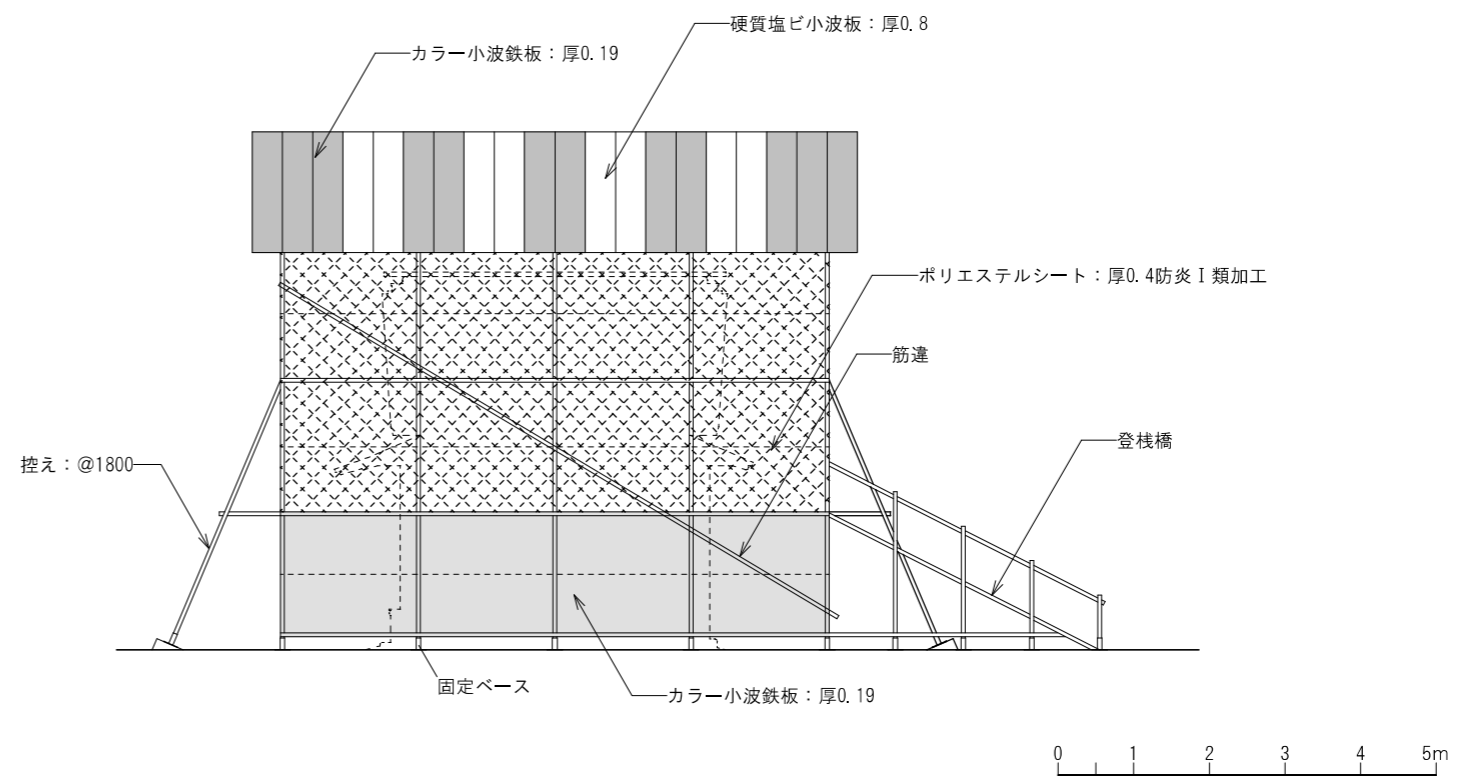
仮設計画図 S=1:600



ガードフェンス (参考写真)



素屋根断面図 S=1:100



素屋根東立面図 S=1:100

	令和3年度												令和4年度												令和5年度												令和6年度												備考
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
現状変更手続き (復元検討)	復元検討資料等作成																																																
適用除外手続き													実施設計																																				
【建造物】 設計監理業務 実施設計業務 監理業務													実施設計												監理業務																								
【庭園】 設計監理業務 実施設計 監理業務	実施設計業務												監理業務																																				
【共通仮設工事】 建造物・庭園																																					仮設物撤去												
【建築工事】 余芳移築再建 ・建物本体													古材継ぎ												仮閉 基礎工事(基礎コンクリート) 新材加工 現地組立 下屋こけら葺き 主屋茅葺 小屋下地挿き 荒壁付 礎石据付 差石据付 妻壁仕上 内外部壁仕上げ 素屋根建設 軒内土間叩き 素屋根解体 濡縁組立 建具工事 内装工事 雑工事																								
・手水石組																																					手水鉢石組据付												
・自火報設備																									弱電配管理設(建物部分) 建物内配管、小屋裏感知器設置												空気が管、機器取付												
【庭園工事】 北園池修復整備 余芳周辺整備													北園池修復工事																								余芳周辺整備												

凡例
 : 今回の現状変更許可申請にかかる内容